

特集

熊本大学医学部附属病院長 就任のご挨拶



附属病院長
谷原 秀信

肥後医育振興会には、日頃より、熊本大学医学部附属病院をご支援いただきありがとうございます。この度、四年間、病院長を務められました猪股裕紀洋先生の後任として、医学部附属病院長に就任することになりました。病院長という重責を拝命し、これから二年間、病院の管理運営を担うことになり、病院長として、ここに、ご挨拶を申し上げます。

本院は、言うまでもなく、細川家熊本藩再春館の時代から連綿と継承されてきた肥後地域の医育機関としての熊本大学医学部の伝統に支えられています。その長い伝統によって、熊本大学医学部に対する愛情を共有していただける関係者の皆様が多数、県内外におられることは、大きな財産であると認識しております。国の財政が厳しい昨今、大学病院の再開発や新臨床研究棟の建設、あるいは柴三郎プログラムを含めた学術支援事業など、さまざまな機会に、学部・病院側の自己負担が要請される状況となっております。もちろん研究活動に関する競争的資金の

獲得に努めることは当然のこととしても、このような状況の中で、高度な診療・研究機能を獲得するためには、自助努力が従来以上に必要となり、今後とも益々、皆様のご支援とご協力が重要なものとなってきております。

熊本大学医学部附属病院は、「本院は、患者本位の医療の実践、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。」という理念を謳っております。さらに基本方針として、(1)患者様の希望、期待、要求を尊重する医療の実践、(2)安全安心で質の高い医療サービスの提供、(3)優れた医療人の育成、(4)先進医療の開発と推進、という基本方針に基づいて、日々の活動をしてまいります。そのためにも次世代の医療を開発・導入することは、本院の重要な使命であると考えております。これらの高度医療を安全に提供するためには、医師だけではなく、看護師、メディカルスタッフ、事務職員が、共通する理念を持ち、協動的に働ける環境の整備が大事だと考えております。また、それと同時に、患者様のクオリティ・オブ・ライフを支えるためには、そのような医療ネットワークを高いレベルで維持することが可能な優れた人材を育てていきたいと願っております。

本院は、病气やケガで苦しんでいる患者様にとって、心の安らぎと癒しを提供できる素晴らしい病院環境を構築することを目指しております。さらに、高度な医療と看護ケアを提供するために研鑽を積むとともに、患者様に対して、おもいやりと温かみのある気持ちを忘れないように、職員一同、更なる努力を続けてい

きたいと考えております。今後とも、本院に対するご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

熊本大学医学部医学科長就任 のご挨拶



医学部医学科長
安東由喜雄
(昭和五十八年度卒業)

平成二十五年度より医学科長に就任いたしました。本職は平成十五年度の医学科再編(保健学科編入)以来設立されたもので、児玉公道初代医学科長、竹屋第二代医学科長、赤池第三代に続き四代目の医学科長となります。この間、コア・カリキュラムの設定に基づくCBTとOSCEの導入、改革など全国的な医学教育改革の潮流のなかで、三人の医学科長のリーダーシップのもと教育・専門科目のカリキュラム変化が強力に進められ、近代的な医学教育システムの構築が完成しつつあります。まさに竜に眼を入れる段階まで改革が行われてきているように思われますが、いくつかの解決しなければならぬ問題も残されております。

本学では平成二十一年度より本医学科の入学定員が増員となり、入学定員の中に地域枠も設けられて、医師不足問題を抱える診療科や地域医療における医師確保対策が講じられてきております。特に、地域の医師不足については熊本県との連携のもと地域枠で入学した学生に奨学金

制度を設けるなど地域医療に貢献する医師養成への取り組みがなされています。これには多少医学部生の質の低下が懸念されるのですが、医学部生の教育システムを少しでも次世代を考えたものに変革させながら、豊かなりサーチマインドを持った臨床医を育てるべく、努力邁進する所存でございます。

平成二十五年度の大きなミッションの一つは、医学部学生への六年間の新たな教育カリキュラムを作り上げることにあります。大学医学部は、私ども教員にとっては臨床・研究・教育の三者を同時に行うことのできる魅力的で稀有の場所であり、この三つが一体となつてこそ魅力ある大学となるものと信じております。教員の教育に費やす時間的負担が重くならず、とくに研究力が弱体化する可能性もありますので、効率よく実りの多い医学教育とはどうあるべきなのかを多くの教授、教員からお知恵を拝借しながら完成させていきたいと願っております。

多くの医学生は臨床医になることを夢見て入学している以上、医師国家試験に関する課題も重要であると心得ております。本学で多くの恩師、諸先輩、学兄より薫陶を受けたOBの一人として、先輩より託された人材育成の使命の重たさをひしひしと感じているところでございます。大きくどっしり構え、グローバルに活躍できる人材の育成という日本の医学界に要求されているミッションを見据え、これまでの財産を発展的に継承しながら、医学部学生育成のエンジンとなることができればと心から願っております。